

令和2(2020)年度 学修成果に関するアンケート 集計結果

〈実施状況〉

本アンケート調査は、教学IRの一貫として学生の学修成果に関する自己評価を把握し、今後の教育内容を検討する際の一つの資料とすることを主な目的としている。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施方法が変更となり、回収率が48.5%と大幅に低下した。今年度は、万全な感染症対策を講じたうえで、例年通り卒業証書・学位記授与式において実施した。

調査対象は、令和2(2020)年度卒業生558人、内446人から回答を得ることができ、回収率は79.9%となった。今後は、中長期計画の施策である3ポリシーの再構築に伴い、設問内容を見直す必要がある。また、回答率向上方策を検討するほか、毎回未回答の設問や特定の選択肢のみで回答するケースが散見されることから、回答内容の精度向上についても検討を進めていく。

本アンケートは学修成果に関する学生の自己評価を把握するためのものだが、今後は成績やアセスメントテストなどの結果を用いて、主観的評価と客観的評価の比較が必要である。

〈集計結果〉

対象者：558人 / 回答者：446人 / 回収率：79.9%

※所属別回収率

〔地域共創学群〕

経済学：79.3%、地域創生：66.7%、経営学：69.8%、法学：87.1%、現代政治：75.0%

英語：86.0%、ロシア語：100.0%、歴史文化：92.9%、日本語・日本文化：76.9%

中国語・中国文化：83.3%、異文化コミュニケーション：89.5%、スポーツ文化：84.6%

現代教養：76.8%

〈設問別集計結果〉

設問はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに関連する11問で構成し、回答選択肢はa~dの4段階に設定した。評価点は、それぞれを4点、3点、2点、1点として算出した平均点である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	全体平均
2019	3.03	2.82	2.93	3.23	2.76	2.97	2.75	3.05	2.95	3.17	2.91	2.96
2020	3.04	2.88	2.96	3.18	2.79	2.93	2.81	3.02	2.95	3.09	2.93	2.96
伸び	0.01	0.06	0.03	-0.05	0.03	-0.04	0.06	-0.03	0.00	-0.08	0.02	0.00

設問毎の評価点では、設問1（一般的な教養）が3.04点、設問4（専門的な知識）が3.18点、設問10（自ら考え行動する力）が3.09点となっており、高い数値となった。しかし、昨年と比較すると数値が下がっているため、重点的に検証する必要がある。

一方、設問5（地域貢献）が2.79、設問7（社会の変化への対処）が2.81となっており、他と比較すると低い数値ではあるが、いずれも昨年の数値からは多少の伸びを確認できた。

※ 設問別および所属別の回答状況については、「集計データ」を参照。

【設問1】（回答人数：443人）

基盤教育科目の学修を通じて、一般的な教養が身についたと思いますか。

（DP：知識・理解／CP②）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 124人 (28.0%) b 240人 (54.2%) c 51人 (11.5%) d 28人 (6.3%)〉

aとbの回答者が82.2%と高い数値となり、評価点は3.04点であった。本学は主体的に学ぶことができる人材の育成のため、それぞれの学位の基盤となる幅広い総合的教養教育を重要視しており、それらを基盤教育科目として1年次を中心に展開している。学生の自己評価は高く、基盤教育の成果が表れたと思われる。

【設問2】（回答人数：443人）

基盤教育科目の学修を通じて、基礎的な語学力が身についたと思いますか。（DP：技能・表現）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 119人 (26.9%) b 195人 (44.0%) c 87人 (19.6%) d 42人 (9.5%)〉

aとbの回答者が70.9%、評価点は2.88点、昨年と比較し、評価点は向上している。基盤教育科目では英語、ロシア語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の6言語を開講しており、段階的に学べるよう配置されている。外国語の学修は学問に対する基本的な姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させる上で重要な位置づけとなっていることから、1言語4単位の修得を卒業要件としている。実質的には1年時の必修科目となっており、卒業時の学生の評価を高めるためにも、語学教育の充実に向け、更に検討を進める必要がある。

【設問3】（回答人数：444人）

基盤教育科目の学修を通じて、社会人としての基礎知識が身についたと思いますか。（CP②）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 124人 (27.9%) b 208人 (46.8%) c 81人 (18.2%) d 31人 (7.0%)〉

aとbの回答者が74.7%、評価点は2.96点で概ね高い自己評価であった。基盤教育科目におけるアクティブラーニング科目、現代教養基礎科目、専攻入門科目などを通じた学修に一定の成果が見られた。今後は修得した知識が卒業後の社会で活用出来ているか、卒業生アンケートの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について検証を進める必要がある。

【設問4】（回答人数：444人）

専攻の学びを通じて、専門的な知識が身についたと思いますか。

（DP：知識・理解／CP③）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 166人(37.4%) b 203人(45.7%) c 64人(14.4%) d 11人(2.5%)〉

aとbの回答者が83.1%、評価点は3.18点と学生の自己評価は高い。各専攻の教育課程には主専攻の深い専門性を担保する科目を配置しており、基礎から応用まで段階的に学び、しっかりと専門的知識を蓄積することが出来ていると評価できる。基盤教育科目において専門分野の学修に向けた基礎を構築していることも要因の一つと考えられる。

【設問5】（回答人数：431人）

※設問4で、a・b・cのいずれかを選択した方にお聞きします。

専門的な知識・技能を活かして、地域の発展に貢献する意欲が高まったと思いますか。

（DP：関心・意欲）

選択肢：aとても高まった b高まった c少し高まった dあまり変わらない

〈a 109人(25.3%) b 166人(38.5%) c 112人(26.0%) d 44人(10.2%)〉

aとbの回答者が63.8%、評価点は2.79点となった。全設問中最も学生の自己評価が低い数値であった。設問4の自己評価は高いが、身につけた専門知識や技能を地域社会のために活用するという意識醸成までは至っていないと考えられる。地域貢献活動の充実や地域の発展に貢献しようとする意欲を高めるような取組み等を検討する必要があると思われる。

【設問6】（回答人数：440人）

全学に開放された専門科目を活用できたと思いますか。（CP①）

選択肢：aとても思う b思う c少し思う dあまり思わない

〈a 126人(28.6%) b 190人(43.2%) c 92人(20.9%) d 32人(7.3%)〉

aとbの回答者が71.8%、評価点は2.93点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。本学の一学群制の学びの可能性を活かし、オリジナルの学びを設計することが出来た学生が一定数存在すると考えられるが、前年度と比較し若干数値は低下している。多くの学生に本学の多様な学びを実感してもらい、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問7】（回答人数：439人）

変化を繰り返す社会に対し、持続的かつ総合的に対処できるようになったと思いますか。

（DP：知識・理解）

選択肢：aとても思う b思う c少し思う dあまり変わらない

〈a 102人(23.2%) b 185人(42.1%) c 118人(26.9%) d 34人(7.7%)〉

a と b の回答者が 65.3%、評価点は 2.81 点となり、昨年度は全設問中最も低い自己評価であったが、本年度はやや改善傾向となった。今後とも、変化を繰り返す社会に対しての深い理解、持続的かつ総合的に対処できるような広い視野と知識を身につけられるよう、教育内容や方法について改善する必要がある。

【設問 8】（回答人数：439 人）

情報を収集・分析する力の両方が身についたと思いますか。（DP：技能・表現）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 130 人 (29.6%) b 207 人 (47.2%) c 82 人 (18.7%) d 20 人 (4.6%)〉

a と b の回答者が 76.8%、評価点は 3.02 点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問 9】（回答人数：440 人）

考察した内容を他者に分かり易く表現し、伝える力が身についたと思いますか。（DP：技能・表現）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 122 人 (27.7%) b 203 人 (46.1%) c 88 人 (20.0%) d 27 人 (6.1%)〉

a と b の回答者が 73.8%、評価点は 2.95 点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。設問 8 の情報の収集や分析については概ね高い自己評価であるが、それらを伝える力については課題であると感じている学生が一定数いるようである。より高い評価を得ることができるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問 10】（回答人数：440 人）

課題を前にした時に自ら考え行動する力が身についたと思いますか。（CP④）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 140 人 (31.8%) b 213 人 (48.4%) c 73 人 (16.6%) d 14 人 (3.2%)〉

a と b の回答者が 80.2%、評価点は 3.09 点となり、全設問中 2 番目に学生の自己評価が高い数値となった。自ら考え行動する力を身につけるため、アクティブラーニングを重視したカリキュラムを編成していることに、一定の成果が表れていると思われる。より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問 11】（回答人数：440 人）

地域において他者と共に新しい価値を生み出す力が身についたと思いますか。

(DP：態度・志向性)

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 125人(28.4%) b 197人(44.8%) c 78人(17.7%) d 40人(9.1%)〉

aとbの回答者が73.2%、評価点は2.93点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となったが、課題と感じている学生も一定数いるようである。【設問5】の評価も高くないため、今後は地域活動への主体的参加を促すような取組みを検討するなど、対応策が必要と思われる。

〈参考〉

札幌大学地域共創学群ディプロマ・ポリシー

建学の精神「生気あふれる開拓者精神」のもと、「地域共創」の理念を体現し、教育目標に謳われる「生気に溢れ、知性豊かな、信頼される人間」に成長し、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

<知識・理解>

言語、歴史、自然、文化、政治、経済、産業、社会、法制度、地域、国際、スポーツの諸側面から人間と社会に関する理解を深め、急激な変化を繰り返す 21 世紀の社会に対し、持続的かつ総合的に対処できる広い視野と知識を身につけていること。

<関心・意欲>

地域の政治、経済、産業、社会、文化の発展を希求し、経済学、外国語学、経営学、法学、文化学に関する専門知識を駆使してその推進に貢献する意欲を身につけていること。

<技能・表現>

基礎的な語学力をベースに国境を越えて発展する地域の諸相を見聞・体感し、情報を収集・分析する技能と、それを分かり易く表現する能力を身につけていること。

<態度・志向性>

地域の取り組みに参加することを通じて、地域において他者と共に新しい価値を生み出す力、すなわち「地域共創力」を身につけていること。

札幌大学地域共創学群カリキュラム・ポリシー

学位授与の方針を踏まえ、自由な学びを通じて主体性を育み、総合的な教養を涵養するために、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

なお、単位認定にあたっては成績評価基準に基づく厳格な評価を行います。

1. 全学共通の基盤教育科目と全学に開放された専門科目を配置し、多様な学びを提供します。
2. 基盤教育科目では、豊かな教養とグローバル世界に対応できる語学力、社会人としての基礎知識を身につけるための科目を配置します。
3. 専門科目では、主専攻の深い専門性を担保する科目を配置すると共に、副専攻をも視野に入れた専攻の枠にとらわれない科目群を提供します。
4. 地域を共に創造する「地域共創」の理念を、自ら考え行動し体験知として身につけるため、アクティブラーニングを重視します。